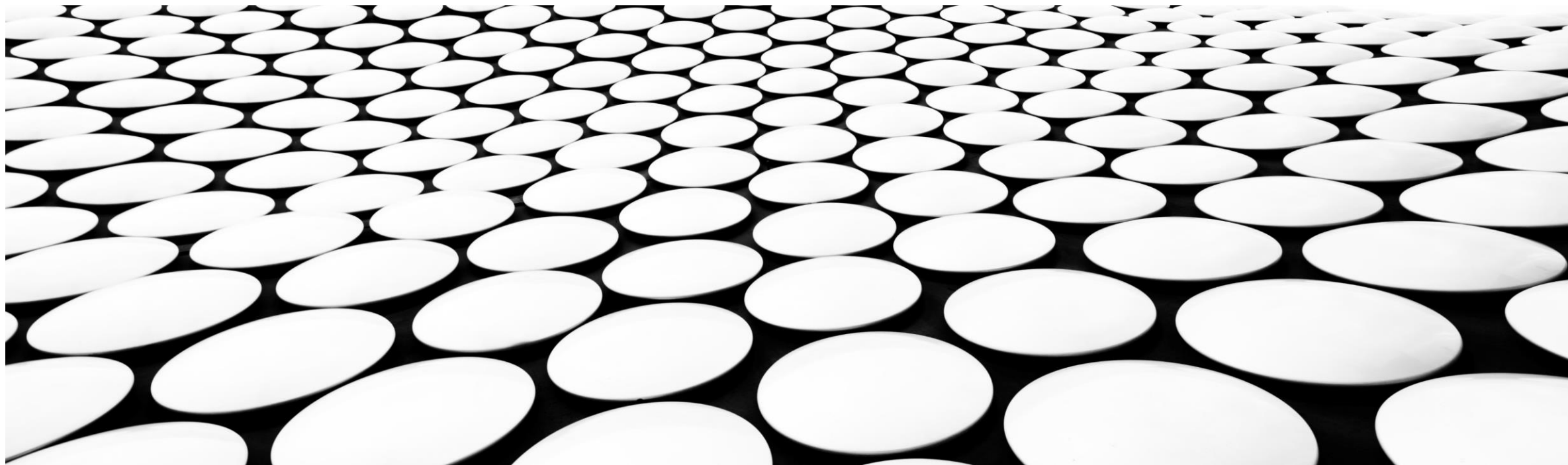


**潜在看護職等、地域の潜在専門職の力で
多様な災害から地域の高齢者等を支援する
新たな地域包括ケアに関する調査・研究事業**

令和3年度 地域包括ケア市町村職員等セミナー 日本福祉大学看護学部 新美綾子



背景

- 外国と比べて**自然災害が多い日本**。
- **南海トラフ巨大地震**の発生確率が高まっている。
- 大規模災害時に外部からの**救助者の早期到着は期待できない**。
- 大規模災害時に消防や行政機関などの**公助には限界**がある。⇒東日本大震災で明らか。
- 地域包括ケアシステムは高齢者に焦点をあてて日頃の途切れない支援を実現したが、災害が頻発している現状において**災害を視野に入れたシステムが必要**である。

発災直後から高齢者をはじめとする災害時要支援者等、健康リスクが高い人々を支援する力が必要。

災害時の自助・共助・公助

自分の身を自分の
努力によって守る



災害時の
被害を抑える



国、都道府県、市町村等の行政、
消防機関による救助・援助等



地域や近隣の人
が互いに協力し合う

自主防災組織

地域住民の
潜在力

多彩な能力

職業経験
免許・資格
技術・技能
生活体験

なぜ、潜在看護職者なのか

- 潜在看護職者とは保健師・助産師・看護師・准看護師免許を取得しているが、看護の仕事をしていない人である。
- わが国には約70万人の潜在看護職者がいるといわれているが、その所在は明らかになっていない。（知多半島には3000人程度存在していると推測）
- 専業主婦、子育て中、定年退職後の人が多い。
- 潜在看護職者は医療の第一線からは離れているものの、看護の基礎知識、基本的技術はゆるぎないことから、災害時の住民の健康を守るための支援は可能である。
- 病院などで常勤の看護職者は災害時には参集する義務が生じるが潜在看護職者は地域住民の一人として、他の住民とともに行動する
- 発災直後から住民と行動を共にする = 発災直後からの支援が可能である。

潜在看護職者が災害時に支援活動を行う条件

- 自分と自分の大切な人の安全が確保されている場合に他の住民支援に力を貸していただく。
- 自分のできることをできる範囲で行動していただく。

潜在看護職者に災害時に行動していただくために

- 災害時に潜在看護職者に期待することを明確にした。
- 災害現場と医療現場の違いを理解していただき、医療現場から長年離れていても何ら問題はないことを伝えた。
- 災害時に看護職者として何ができるかを自認していただいた。
- 災害時の活動に必要な知識・技術を研修プログラムに落とし込んだ。
- 研修を受講することで災害時の自らの行動を具体的にイメージでき、自信をもてるように働きかけた。

多くの潜在看護職者は災害時に役に立ちたいという意識をもっている。

医療から離れていることで自信がないから行動できないと思っている。

災害時に潜在看護職者に期待できること

- 負傷者の応急救護・応急処置を実施できる。
- 避難所の衛生環境の整備（トイレの清潔確保、避難スペースの衛生環境の整備等）ができる。
- 避難所における災害時要支援者への対応（高齢者、妊産婦、子ども、慢性疾患を持っている人等）ができる。
- 避難者の2次的障害（肺炎、エコノミー症候群、生活不活発病等）の予防ができる。
- 外部への連絡がつけば、トリアージの視点から避難者の健康状態を報告し、救助計画の一助となる。

平時に潜在看護職者に期待できること

- 災害に向けて自らの備えを行う。
- 災害時に支援が必要な隣近所の人を把握する。
- 地域の防災訓練など防災に関するイベントに積極的に参加する。
- 防災訓練等を通して自主防災組織などの構成員と顔見知りになる。
- 災害関連の情報や知識を積極的に取り入れる。

本研究事業の経緯

災害時における医療体制の脆弱性を懸念していた

東海キャンパス所在地（東海市）の保健師らの問題意識



東海市の近隣市町・本学美浜キャンパス所在地（美浜町）へと事業を拡大



厚生労働省補助金事業として採択

災害時にも活用できる地域包括ケアシステムを目指した。

- 知多半島から東三河・富山県まで事業拡大
- 全国から受講可能な研修システムを構築

①2015年：医師、保健師、看護師、災害ソーシャルワーク専門家で構成する研究チームにおいて、潜在看護職者を対象とした地域在住災害支援ナース育成プログラム試案の作成・実施（看護実践研究センター助成）

②2016年：東海市在住の潜在看護職に呼びかけ、東海市のニーズに合わせた内容を追加して実施（COC）

③2017年：受講対象者を東海市・知多市在住の潜在看護職者に拡大してプログラムを実施（COC）

④2018年：東海市・知多市在住の潜在看護職に加え、美浜町も対象地域として実施（COC）

2019年～2021年厚生労働省老人保健健康推進等事業交付金受給

2019年度：知多半島沿岸部の7市町を対象に、行政広報誌・チラシ・ポスター配布等で主に潜在看護職者への災害時協力の呼びかけ・調査・研修・行政への登録を実施。

2020年度：知多半島全自治体を対象に調査を実施。研修プログラムの追加。

2021年度：東三河地域・富山県南砺市に事業拡大研修をオンデマンド化

2015年～2018年

- 潜在看護職者へチラシ・口コミ等で呼びかけ、賛同して集まった人に研修会を実施した。

2019年～2021年

- 自治体広報誌で協力の呼びかけ、災害時の住民支援に関する意向調査を実施した。
- 2021年度知多半島では保育士、歯科衛生士、救急救命士などの潜在者も対象とした。
- 2021年度は東三河地域、富山県南砺市を対象地域に加えた。
- 調査において、研修会受講希望、自治体への協力者として住所・氏名を自治体に伝えることの承諾の有無を確認した。
- 研修会受講希望者を対象に研修会を実施した。
- 2020年～コロナ禍を受け、研修のオンデマンド化を実現した。
- 災害時協力者で自治体への登録を承諾した者の氏名連絡先を自治体に伝えた。
- 自治体登録者には市長より災害時協力の委嘱状の交付を依頼した（半田市・東海市・知多市において実施）。

事業概念図

〈システム推進事業〉

潜在看護職活用
システム化

地域包括ケアシステム

NEW 災害時の安全

医療

介護

住まい

生活支援・介護予防

地域防災計画

災害時の共助力

市長・町長より委嘱状

リーダー

〈研修事業〉

実践力・自信

ベーシックコース

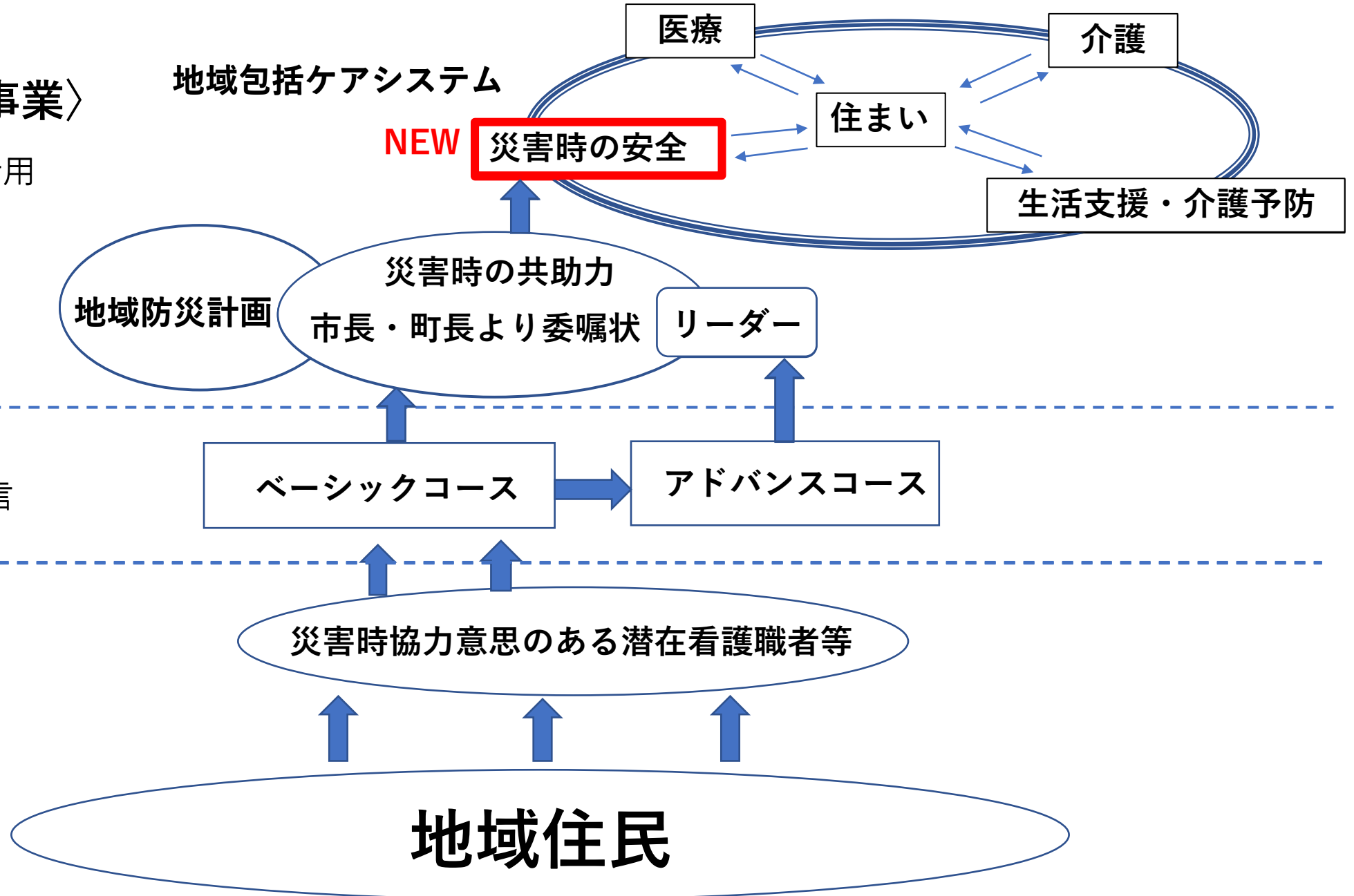
アドバンスコース

〈調査事業〉

潜在看護職
掘り起こし

災害時協力意思のある潜在看護職者等

地域住民



2015年～2018年のプログラム内容

2015年試案

2016年版（東海市）

2017年版（東海市・知多市）

2018年版（東海市・知多市・美浜町）

2015年試案		2016年版（東海市）		2017年版（東海市・知多市）		2018年版（東海市・知多市・美浜町）		
回	テーマ	回	テーマ	回	テーマ	東海市・知多市	美浜町	
1	「災害現場からの報告」	1	「災害現場での実体験を聴こう！」	1	「災害現場での実体験を聴こう！」	回	テーマ	
2	「避難所運営ゲーム HUG」	2	「災害が起きたら、どうする？」	2	「災害が起きたら、どうする？」		1 「災害が起きたら、どうする？」	
3	「災害時の応急対応を知ろう！」	3	「HUGを使って災害を体験しよう！」	3	「災害時のトイレの扱いについて学ぼう！」	1	「避難所における生活支援について学ぼう！」	
		4	「災害時にお産が始まったら！」	4	「災害時の応急対応を知ろう！」	2	「災害時にお産が始まったら！」	
		5	「災害時の応急対応を知ろう！」	5	「災害時にお産が始まったら！」	3	「防災キャンプを体験しよう！」	
		6	「災害時に何ができるか考えよう！」	6	「シミュレーションゲームで災害に対応しよう！」	4	「災害時の応急対応を知ろう！」	
				7	「災害時に何ができるか考えよう！」	5	「東海市防災訓練に参加しよう！」	
						東海市	「防災キャンプを体験しよう！」	
					「防災訓練に参加しよう！」	6	「災害シミュレーションゲームで災害時を体感しよう！」	
						7	「災害時に何ができるか考えよう！」	
							4	「災害時に何ができるか考えよう！」

2019年～2021年の研修会プログラム内容

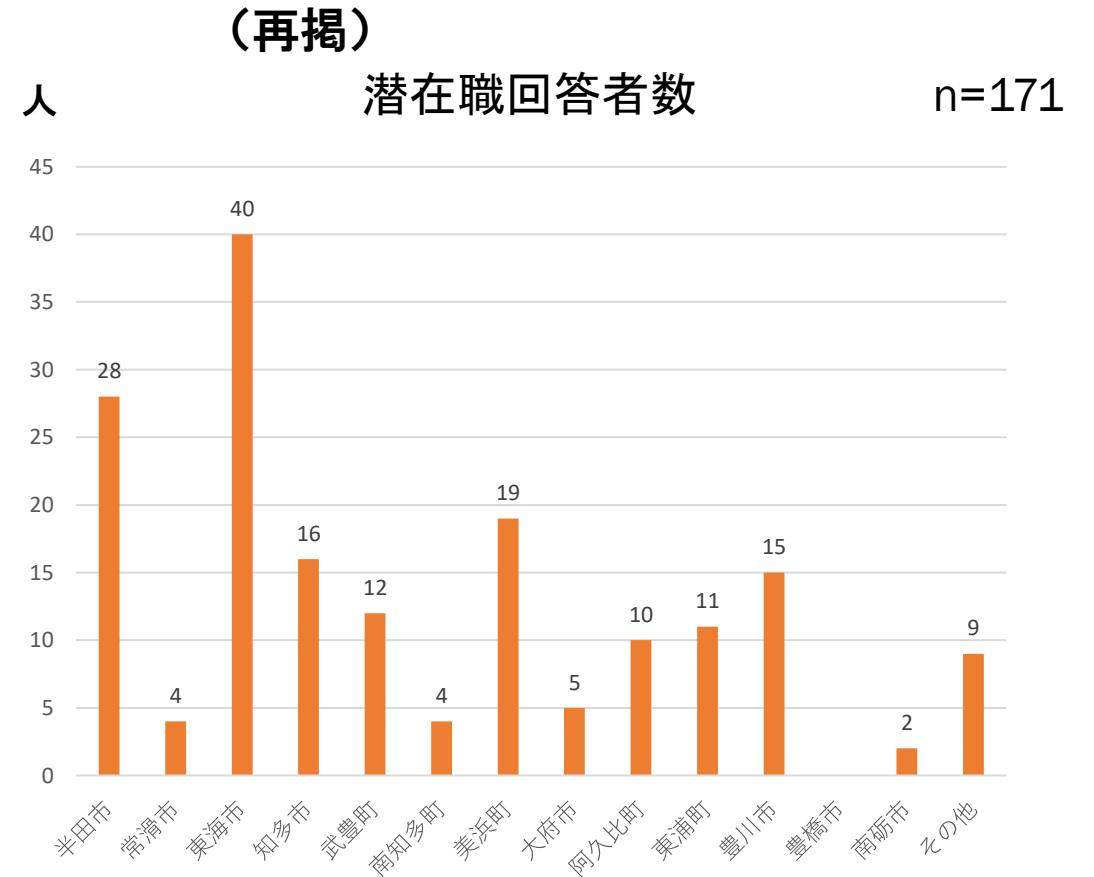
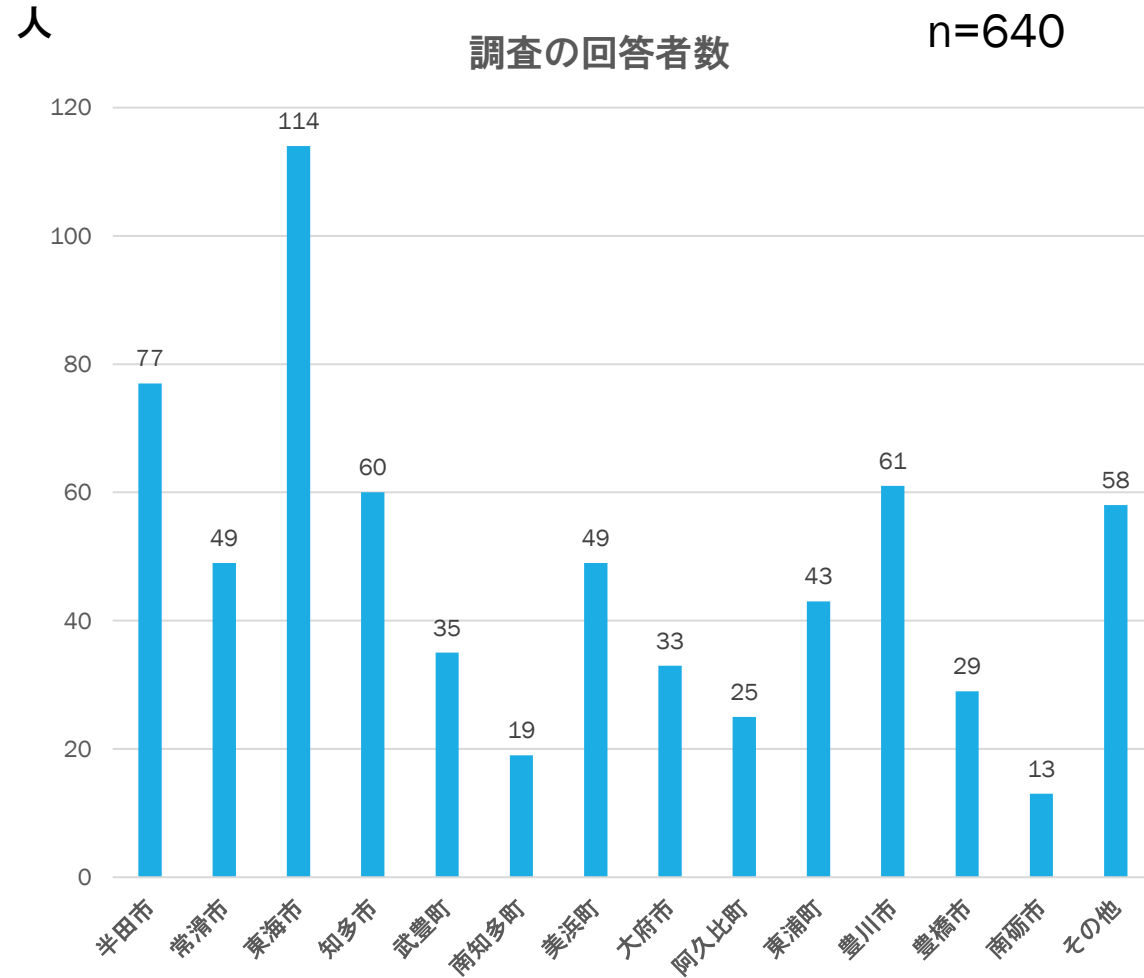
2019年プログラム

回	テーマ	内容
第1回	災害時に何ができるか 考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・災害現場の現状と課題 ・災害時に看護職としてできること ・災害時の行動のイメージ化
第2回	災害時の応急救護方法を 知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患をもっている方への対応方法 ・トリアージ ・災害時に必要な応急処置実技実習
第3回	避難所での対応を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営 ・避難所の衛生管理方法 ・プライバシーと安全を守る方法

2020年・2021年プログラム 黄色塗りつぶしは2021年に追加

コース	内容		受講形態
ベーシック コース	第1回	災害時に看護職としてできること	オンデマンド配信
	第2回	◎対面研修会（オンデマンド配信もあり） 災害時の応急救護実技実習	対面研修会 オンデマンド配信
	第3回	避難所における健康管理	オンデマンド配信
	第4回	災害時の口腔衛生	オンデマンド配信
	第5回	子どものための心理的応急処置 オンライン講座（生配信）10月10日（日）13時～	オンライン講座（ZOOM） オンデマンド配信
アドバンス コース	第1回	避難所シミュレーション演習	オンデマンド配信
	第2回	避難所感染管理実践編 第1部：総論 避難所等での感染と健康の管理 第2部：各論 避難所における感染症予防各論	オンデマンド配信
	第3回	地域の災害弱者の命を守る考え方と実践	オンデマンド配信
地域コース	南砺市	南砺市の災害と防災	対面研修会
	豊川市	豊川市の災害と防災	対面研修会

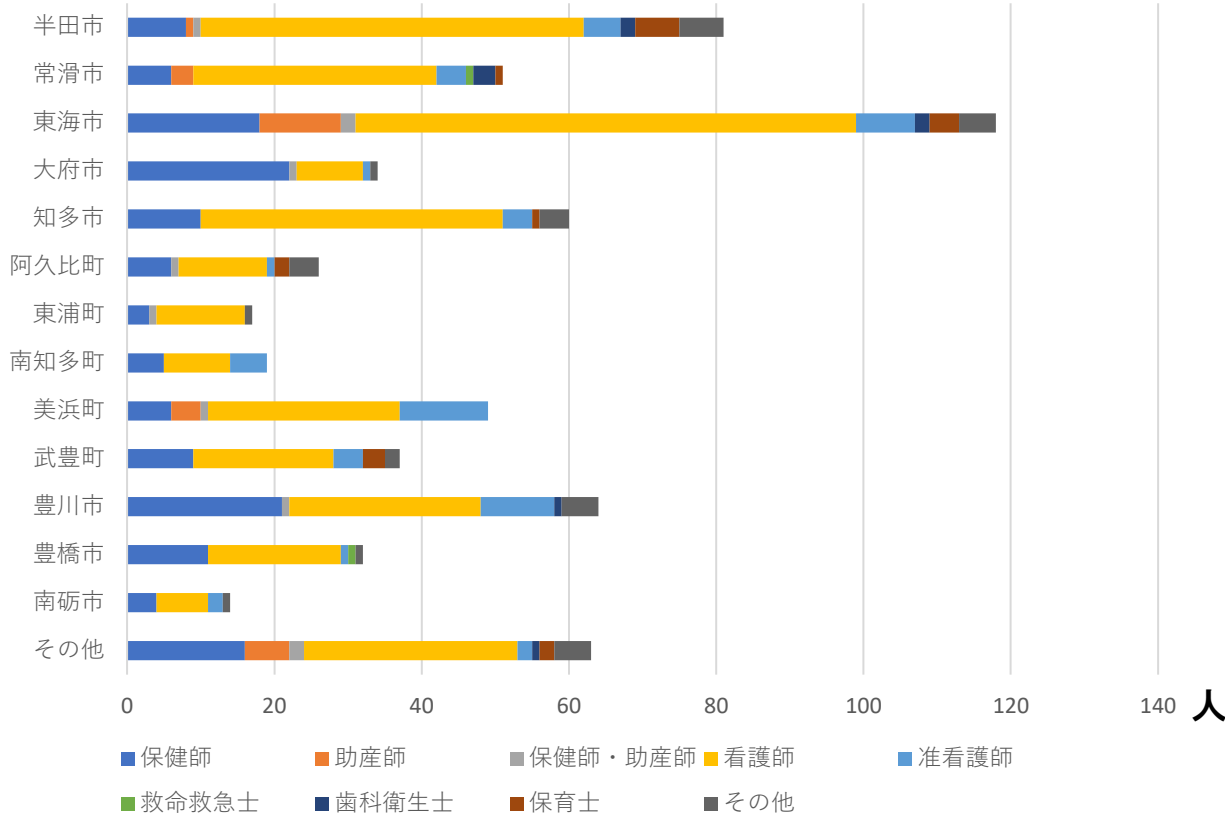
事業の実際 調査事業 2019年～2021年の合計



調査回答者の保有免許

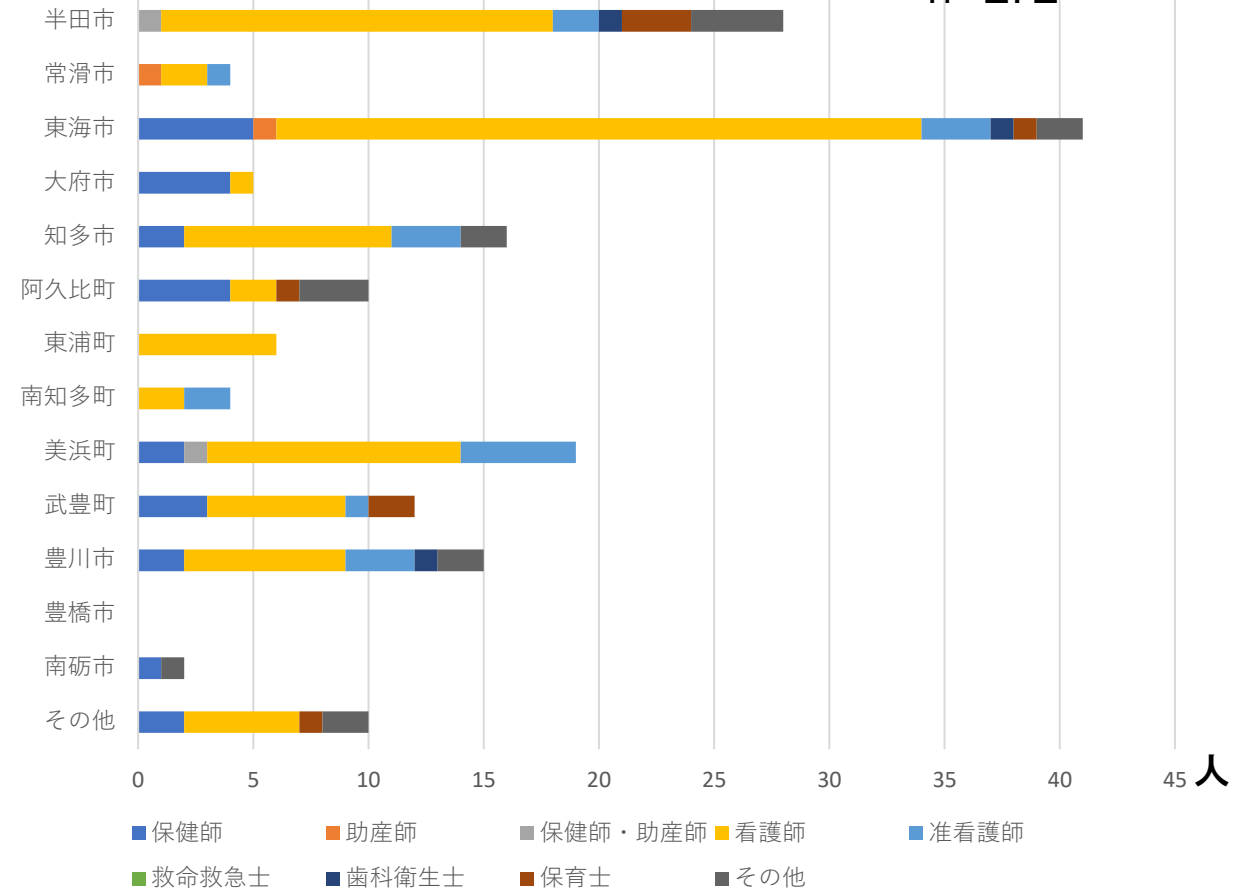
保有免許

n=640



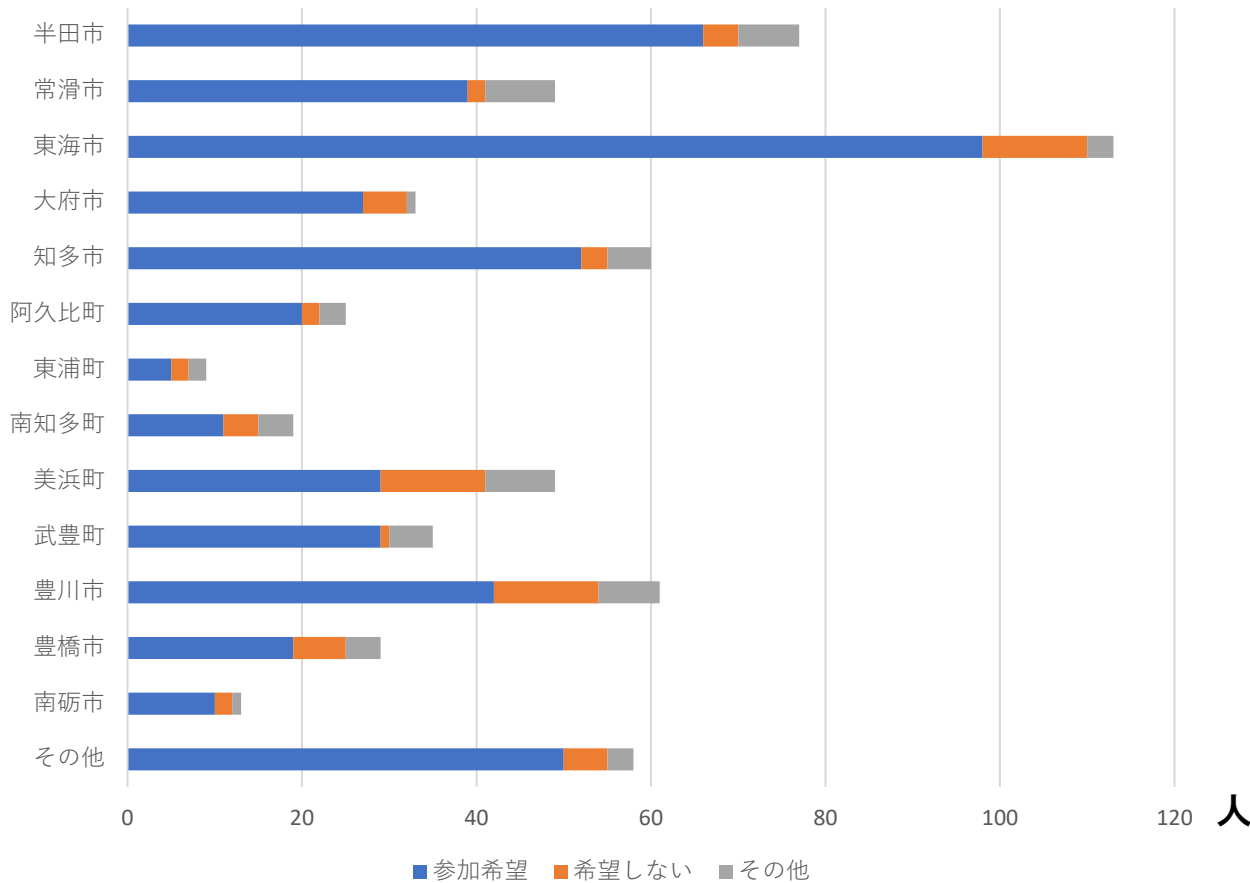
(再掲) 潜在職者保有免許

n=171

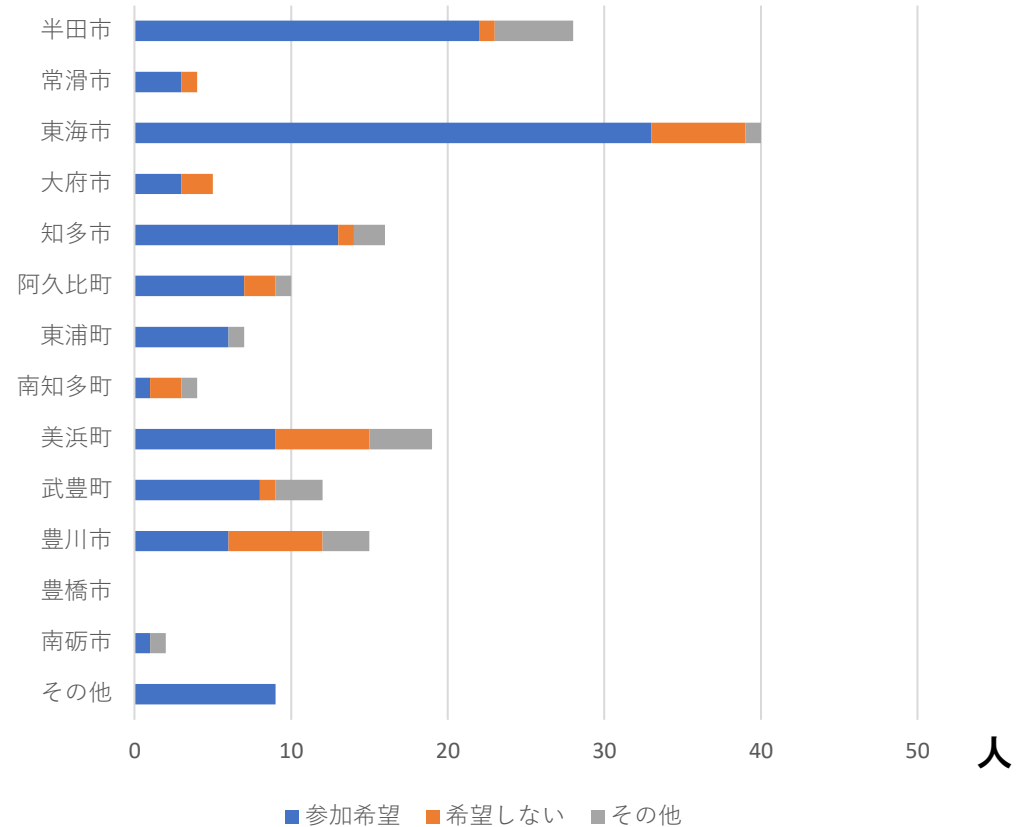


研修会参加希望意思

研修会参加意思 n=640



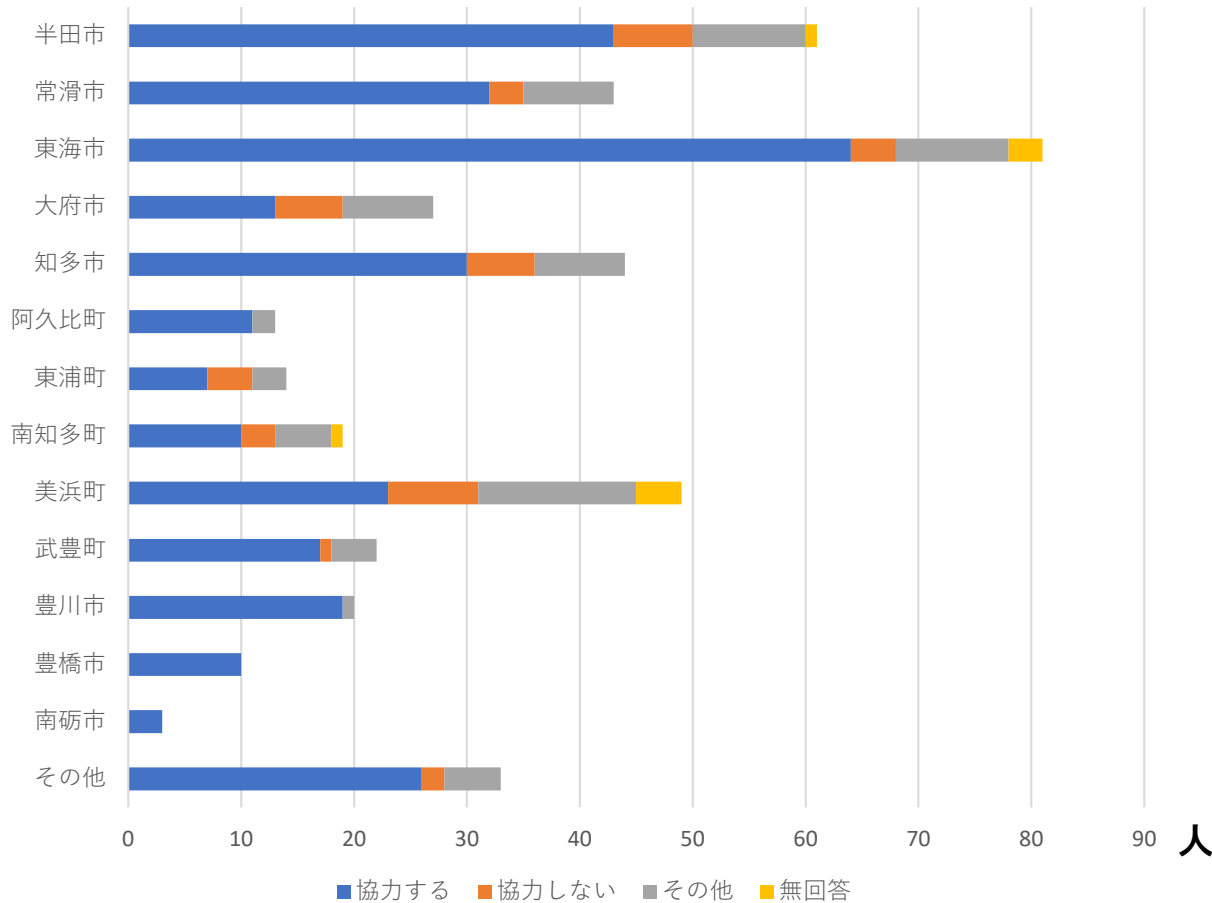
(再掲) 潜在職者研修会参加意思 n=171



注) その他の回答では家族の介護や育児のために参加できない、子どもを見てくれる人がいれば参加できるなどの理由が多かった。

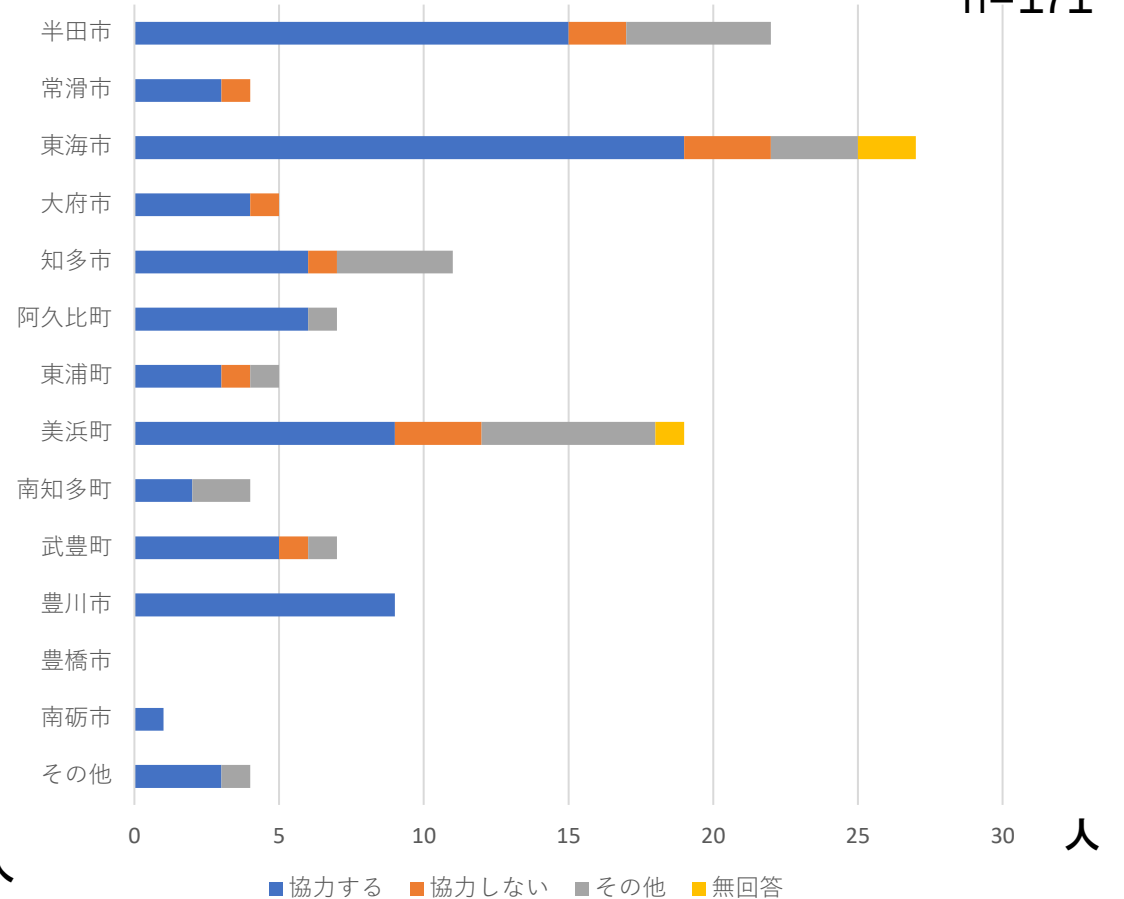
自治体への協力意思

自治体への協力意思 n=640



(再掲)

潜在職者自治体への協力意思 n=171



注) その他の回答では今は家族の介護や育児のために協力が難しいが可能であれば協力したいという記述が多かった。

事業の実際 研修事業

研修会の状況 2021年度受講者の感想

ベーシックコース第1回 災害時に看護職としてできること



- 被災地で自分自身が被災者となっている中で、地元の強み×専門性+センスで その場で何が出来るのか安否確認なのか危険な場所の確認なのか被災者のケアなのか考えて、防災に取り組んでいきたいと思いました。
- 地震や津波、大雨や土砂崩れなど災害に対するイメージが変わった。事前に避難できるものと出来ないもの。日頃の訓練と経験が必要だと痛感した。いつ南海トラフ地震が起こってもおかしくない東海地方に住んでいる以上、必須の知識と思う。
- 以前から、災害時には、何か役に立ちたいと思っていました。しかし、近所付き合いが苦手で、地域内での人間関係もできていませんし、公共施設の場所すらよく知らない状態です。何かできることがあるかも知れないと思い、受講を始めました。やっぱり、何かしたい、何かできるかもしれない、と思えてきました。まずは、地域のことを知ることから始めます。

ベーシックコース第2回 応急救護実技実習 対面研修会とオンデマンド配信

YouTube 検索



災害初期の傷病者対応と、災害時に留意すべき人・疾患

名古屋掖済会病院
北川 喜己

名古屋掖済会病院 救命救急センター
北川 喜己

0:07 / 46:14

ベーシックコース第2回第1部講義



研修会の状況 2021年度受講者の感想

ベーシックコース第2回 応急救護実技実習 対面研修会とオンデマンド配信

- トリアージと救急処置をアウトカムしておき、動けるようになりたいと思った。
- 治療するのではなく、医師に任せるまで、負傷者の負担軽減の支援が看護職の役割と思えたことは自分の中で感じた変化だ。
- 怪我の応急処置は医療従事者のやる事だと思っていたが、現場で自分に出来ることがあるなら力になりたいと思った。
- 災害時に何を最優先するべきかを、学び直す事が出来ました。
- 実践できたことで、漠然とした不安が少し軽減した。
- このような状況に居合わせたときできる限りの手助けができれば良いと思いました。
- 救護所による災害初期の傷病者対応の重要性を学んだ。
- 実際に実技を体験することが大切だなと感じました。その時が来たらできるか不安ですが研修で学んだことが、精神的な力になるような気がしています。

研修会の状況 2021年度受講者の感想

ベーシックコース第3回 避難所対応



- 隣組という制度があって組長になった時に避難訓練を経験しました。ただ、地元民の繋がりが強すぎて、私のようなよそ者には特にメリットは感じていなかったのですが、近隣住民の把握（要支援者の有無等）ができた方が活動はしやすいと思うので、プライバシーも大切ですが地域活動に少しは関わろうと思うようになりました。
- 人間、食べる事は大切だがそれと同じく排泄の大切さも思い知らされました。最後に被災地での食の援助は、テレビで報道されるが排泄の事はニュースにならないのはとても残念だと思います！
- 災害避難所は色々な問題が山積みで、まず自分は何ができるか、看護の目だけでなく、色んなことを考えて対応しなければいけない難しさを痛感した。
- 東日本大震災時の避難所で性被害が多発したことに驚きました。災害で傷ついて、更に性被害に、遭遇した人は、立ち直ることが出来ないほど苦しむと思います。防止策、安全の確保等、専門的に考えて行かないと思いました。

研修会の状況 2021年度受講者の感想

ベーシックコース第4回 災害時の口腔衛生



- 口腔内ケアは災害時にさらに重要性である事を痛感しました。発災の時間によって義歯の紛失があることや義歯が合わないことから栄養状態に影響を与えてしまうことなど、研修での学びは有事の際にとっても役に立つと思いました。
- 避難袋に歯ブラシを入れておく必要性を知りました。
- 60歳からでも出来る、口腔ケアの大切さ、筋力維持も肺炎予防になることなどを学びました。
- 避難生活で肺炎を予防していくためには、口腔ケアだけでなくあらゆる角度からの支援が必要だということが分かった。
- 支援物資に歯ブラシという頭がなかったのですが、すごく大切なんだなということを知りました。
- 分かりやすく正しい知識を得られた。噛む力を調べるガム。義歯の装着材など、新しい知識も得られた。

研修会の状況 2021年度受講者の感想

ベーシックコース第5回 子どものための心理的 応急処置



YouTube JP 検索

国立病院機構災害医療センターDMAT事務局
厚生労働省委託事業DPAT事務局
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

河嶋 讓

感染症状況下における
こころのサポート
～子どものための心理的
応急処置～
子どもの親、養育者、支援者に向けて

国立病院機構本部DMAT事務局/DPAT事務局
日本赤十字社医療センターメンタルヘルス科
羊蹴門のびすこどもクリニック
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内緊急支援事業アドバイザー

Save the Children DPAT

0:14 / 1:09:31

ベーシックコース第5回「子供のための心理的応急処置」

- 子どものストレス反応の特徴が年齢（成長に応じて）によって異なること。また、緩和のための呼吸法や筋緊張の緩和などを学んだ。
- 不安な気持ちをごっこ遊びとして整理していることを理解しながら関わる重要性を感じました。
- 子どもと接する時、どうしても上から目線になってしまう、傾聴できるか心配。
- 災害時に自分以外の人が進んでくたさうという考えから、自分が動きたいという気持ちにかわった。
- ストレス状況にあることを再確認するとともに、対応する者も気負って支援するのではなく自身も含めて、緊張状況の緩和や安心できる関係づくりが必要であること

研修会の状況 2021年度受講者の感想

アドバンスコース第1回 避難所シミュレーション演習



- これまで、避難所での生活を経験したことがないため、なんとなくしかわからなかったことが多かったが、感染症対策を考慮しながら運営をしていくには、ルール作りが必要であること。このルールも、難しいことではなく、誰もが守れることが重要だとわかった。
- 発災直後は、行政も混乱し適切な環境が整うことに時間がかかるかもしれない。それまでに出きることを、地道に行うには、強い気持ちが必要だと感じた。
- スライドや事実に基づいた講義で、何をすべきかについてをわかり始めた気がします。災害+コロナと、難しいと感じますが頭を柔らかく対応することが必要と感じました。
- コロナ禍における避難所の工夫や外部支援だけに頼らずにできることは自分たちでということを知ることが良かったです。

研修会の状況 2021年度受講者の感想

アドバンスコース第2回第1部 感染症の基礎知識



- 感染者がいることを頭において、避難所運営をするということ、感染者が存在すると前提した対応の重要性を学んだ。
- 分散避難を行い各支援チームと情報を共有することで連携がとれ災害者へのアプローチがしやすくなる 被災者やスタッフにおいても感染対策をしっかり行うこと 避難所以外の避難者において 生活状況の把握が重要で積極的に現場に踏み込むことが必要だと感じました。
- 3つの感染症の繋がりで第3の“感染症”偏見や差別 が起こらないようにするためには、話しやすい環境をつくることの大切さを知りました。個人情報保守ふまえての情報共有 情報管理の難しさを感じます。感染者がいることを前提に予防 検知 対応する とても、難しい事ですね。
- NPOが災害時に組織的に活動していることは非常に心強く感じたが、あまりに様々な団体がかかわるため指揮命令系統や情報が混乱しそう

研修会の状況 2021年度受講者の感想

アドバンスコース第2回第2部 避難所感染対策実践編



- 感染予防の具体的な方法 手洗いからマスク着用方法、ガウンの着用まで日頃の復習になりました。避難所では感染の可能性のある方とない方に対してのより適切な方法を知ることが出来ました。
- N-95マスクとサージカルマスクの使い分けとN-95の保管方法が理解できたので、職場でも生かしたいと思いました。
- 感染疑いのある方と疑いのない方とどういう対応をしたらよいか、新たな感染が生じないように生活のゾーンを分けたり、環境対策を徹底して安全を守りたいと思いました。
- 環境対策でテーブルの裏面も清拭する知識が無かったので気を付けようと思いました。
- ガウンテクニックの方法を再確認することが重要だと思った。N95マスクは今まで扱った事が無いので不安です。
- 避難所における感染症予防、標準予防策においての知識が再確認でき、ありがたい気持ちです。

研修会の状況 2021年度受講者の感想

アドバンスコース第3回 地域の災害弱者の命を守る考え方と実践

YouTube

検索

オンデマンド

日本福祉大学
潜在看護職事業

地域の災害弱者の命を守る
考え方と実践

- 新型コロナ禍の中で -

愛知県立大学・看護学部
“まもるよ ちいさないのち”
地域災害弱者対策研究所
清水 宣明 (教授 医学博士)

清水 宣明

0:08 / 37:58

- 津波、洪水の時は地面から高いところにいることが重要で避難所に行く途中で水が達してしまったら逃げ遅れ命がなくなることがある。避難場所は事前に第一、第二、第三と決め、時間と距離を考えて移動出来る場所は移動する独自の避難プランでよいということがわかった。
- 子どもでは、すぐに体温が下がり注意喚起すること。
- 避難することを「とにかく逃げろ」と思っていたので間違いだったと気づいた。
- 無くさなくてもよい命を守るために、まずは自分の命を守ること。また私達が避難所で出来る事も限られているので助けたい。という一心で動くのは危険だということ。未経験だからこそ子供達の安全を守り無理のないプランを見極めておくことが大切だと思った。
- 災害は不意な事で、いつ起こるか分からない。下手な支援は不要な危険を招くため、自分の力の限界を知り、被災後の支援を心掛けたい。

登録した潜在専門職者の活用方法を確立した自治体

- 東海市（登録者約70人）：災害支援看護職活動員の名称で市長より委嘱状を交付している。災害時に避難所や応急救護所での活躍が期待されている。定期的な研修、防災訓練への参加等により地区別の看護職同士のネットワークが形成されている。
- 知多市（登録者約50人）：災害時健康活動サポーターの名称で市長より委嘱状を交付している。災害時に避難所等で地域住民の健康面における支援が期待されている。
- 半田市（登録者約30人）：自主防災組織の一つとしてHanda Potential Nurse Clubを設立し、登録した潜在看護職者は地域の避難所において避難者の健康管理に関するアドバイザー並びに支援者としての活躍が期待されている。

「潜在看護職」接種に従事へ



接種の研修会に参加する看護師ら。東海市の日本福祉大東海キャンパスで

日本福祉大看護学部教員から学ぶ

研修会では、接種当日の流れやワクチンの取り扱い、接種の仕方、重いアレルギー反応のアナフィラキシーを発症した場合の対応などを、同大看護学部の教員から学んでいる。

二十二日に参加した東海市名和町の早川セキ子さん(仮名)は「災害時に役立てればと思い、登録し研修も受けてきた。ワクチン接種という形で活動するとは思っていなかったけど、少しでも力になりたい。消毒や注射の方法など昔と違う面があるが、研修で学んだことを生かしたい」と話した。

市は、十年前の東日本大震災の支援で、応急処置や健康管理で職員を派遣した岩手県釜石市で看護師らが必要とされること

(福本英司)

東海市は、資格を持ちながら看護師や保健師などとして現在には働いていない「潜在看護職」の市民に、新型コロナウィルスのワクチン集団予防接種に従事してもらおう。接種に向けた研修会が、同市の日本福祉大東海キャンパスで行われた。

コロナワクチン 東海市が研修会

知多版



つながる2
伊藤明美
主体美術協会

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650-5919
Eメール

shakai@chunichi.co.jp

半田支局 〒475-0903
半田市出口町1-45-18
0569-21-0021 Fax23-2372
中部空港支局 〒479-0881
常滑市セントレア1-1
0569-38-1310 Fax38-1311

東海通信局
0562-32-0240 Fax33-5065

大府通信局
0562-46-2668 Fax46-6833

常滑通信局
0569-35-2248 Fax36-0040

内海通信部
0569-62-0055 Fax64-0005

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール

center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

新型コロナパンデミックという災害において、全国的にワクチン接種の担い手不足が問題となりましたが、東海市、知多市、半田市では登録した潜在看護職者がコロナワクチン接種業務に従事しました。

を認識した。そこで潜在看護職に災害時に協力してもらおう仕組みを、二〇一九年度に本格導入した。潜在看護職に事前に登録し、研修を受けてもらっている。

今回は災害ではないが、コロナ禍で医療従事者が必要な中、ワクチン接種に従事してもらおうこととした。登録していた看護師ら五十人が参加を希望し、二十二日から開かれている研修会を、一日間受講している。研修を受けた人は、東海市のしあわせ村で行われる集団予防接種に携わる。市などがつくった潜在看護職が実際に活動するのは、訓練以外では初めてとなる。